

# 犯罪者の立ち直りとレジリエンス そして就労支援へ

津 富 宏

静岡県立大学

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

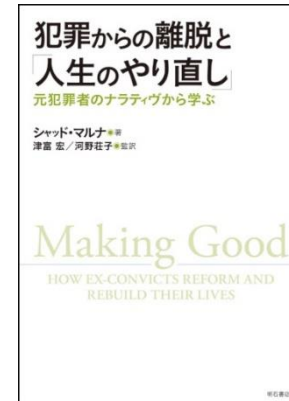
一般社団法人静岡学習支援ネットワーク

[tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

# プロフィール

|      |                                                      |                               |
|------|------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 生まれ  | 昭和34年                                                | 東京都                           |
| 略歴   | 昭和58年                                                | 5年かかって大学卒業<br>法務教官(少年院の教官)となる |
|      | 平成14年                                                | 法務省から静岡県立大学に移る                |
| 専門   | 犯罪学(原因論、非行からの離脱研究)<br>評価研究(犯罪者処遇の効果研究)<br>青少年の社会参加支援 |                               |
| 社会活動 | NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡理事長<br>一般社団法人静岡学習支援ネットワーク理事長     |                               |

## 立ち直り



## 評価研究



## 若者支援

## 就労支援



## 民主主義

# 最近刊

## 津富宏 第6章 困難をはねかえす道筋 —若者の主体化のために—



本章では、社会的排除を受けている若者が、どうしたら、主体として立ち上がることが可能なのかについて考えたい。問題意識は、社会的排除をされている若者を、ケアや支援の客体としてしまうのではなく、いかに、社会形成の主体とすることが可能かということである。客体から主体への転換。そんな道のりは可能だろうか。

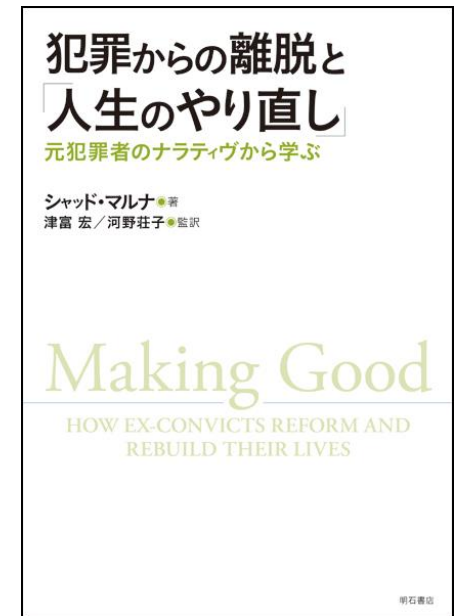
(中略)

弱者に対するケアや支援は、しばしば、エンパワメントとは逆方向に作用し、パターンリスティックな文脈のもと、被庇護的な地位に、被支援者を置いてしまう。本人が社会からのケアや支援に依存しているという印象が際立つと、「甘えるな」といった社会的非難の対象となったり、本人自身が無力な立場にあると感じて非庇護的な地位からの脱出をあきらめたりもする。

# 今日の原典

## 原題は、Making Good

- 更生 (rehabilitation) ではない
- マルナ「スポーツの試合でも、うまくいかなくって、敗色濃厚っていうことがある。そんなときに、負けている分を、何とか追いついたって感じさ。借りを返したっていうか。」
- 私は「やり直し」と訳した



# 私の関心

社会的排除の時代  
生きのびることを求められる時代に

しんどい人々と付き合ってきた  
犯罪学が  
いかに貢献しうるのか

# 犯罪学におけるシフト

犯罪への着目から  
犯罪をしないことへの着目へ

# 離脱研究 (desistance study)

- 犯罪をなぜ行うようになるかではなく、犯罪をなぜ行わなくなるかの研究
- 犯罪経歴への入り口ではなく、出口の研究
  - 出口というものがあるかどうかは、別にして
- サンプソンとラウブのライフコース理論
  - 男子非行少年の立ち直り研究
  - 長期追跡研究(グリュック夫妻のデータを活用)
  - ライフコース: 制度化された役割の年齢による布置 trajectory/pathway
    - 制度化された役割 = 地位に伴う行動期待
    - 地位: 家族 学校 職場 地域 における地位
  - 制度化された役割に伴う義務と制約 = 社会的資本
    - 非公式社会統制 = 義務と制約がもたらすもの
  - トランジション transition 役割の変化
    - ターニング・ポイント turning point 役割の「大きな」変化 社会的資本の変化を伴う



# Sampson and Laub (1993)

- グリュック夫妻のデータ(32歳まで)の分析
- 仕事の安定性 → (マイナス) 逮捕
  - \* 仕事の安定性: その時点で働いていたか 直近の仕事が何ヶ月続いたか 勤務姿勢がまじめか
- 配偶者との結びつきの強さ → (マイナス) 逮捕
  - \* 配偶者との結びつきの強さ: 別居や離婚がなく続いているか 経済的・情緒的責任を果たしているか 妻に親愛感を持っているか 前向きな関係で仲良くやっているか

# Laub and Sampson (2005)

- グリュック夫妻のデータ(今度は70歳まで)の再分析
- 3つのグループ
  - 犯罪から離脱したグループ
  - 犯罪を何度も行ったグループ
  - 中間のグループ
- ターニングポイント: 結婚、軍隊での活動、就労
- 離脱のメカニズム
  - 犯罪をしていた時の環境(家族、不良交友)を断ち切る経験
  - 構造化された役割(仕事、結婚など)の経験

# 対人援助科学全般における シフト

# ポジティブ・シフト

対人援助科学において、物事のネガティブな側面に着目する問題解決アプローチではなく、物事のポジティブな側面に着目する変化志向アプローチへのパラダイムシフトが起きている。

心理学におけるポジティブ・サイコロジー  
発達科学におけるresilienceへの着目  
解決志向のブリーフセラピー  
組織開発におけるAI (Appreciative Inquiry)

精神医療における、ストレングスモデル

## 根本は「リカバリー」

# リカバリー

リカバリーは旅（過程）であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方です。平坦な一本調子の直線的な旅（過程）ではありません。ときに道は不安定となり、つまずき、旅の途中で止まってしまうこともあります。けれど、気を取り直してもう一度はじめることもできるのです。この旅で必要とされるのは、障がいへの挑戦を体験することです。障がいによる制限の中、あるいはそれを超えて、健全さと意思という新しく貴重な感覚を再構築することなのです。リカバリーの旅で求めている事は、地域の中でふつうに暮らし、働き、愛し、そこで自分が重要な貢献をすることなのです（ディーガン、1988）。

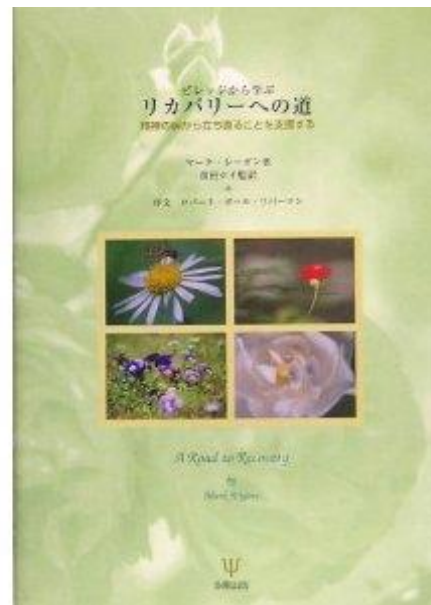
# リカバリー

- 人が精神疾患からもたらされた破局的な状況を乗り越えて成長するという、その人の人生における新しい意味と目的を発展させること(田中, 2010)
- 精神疾患を持ちながらも、自分らしい人生を取り戻し、充実した時間を生きること(リカバリーキャラバン隊)
- 精神障害のある人が、それぞれ、自分が求める生き方を主体的に追求すること(NHK 若者の心の病 情報室)

# リカバリー

資料 「リカバリー志向の実践」  
ラップ、ゴスチャ 2014  
ストレングスモデル[第3版]  
リカバリー志向の精神保健福祉サービス

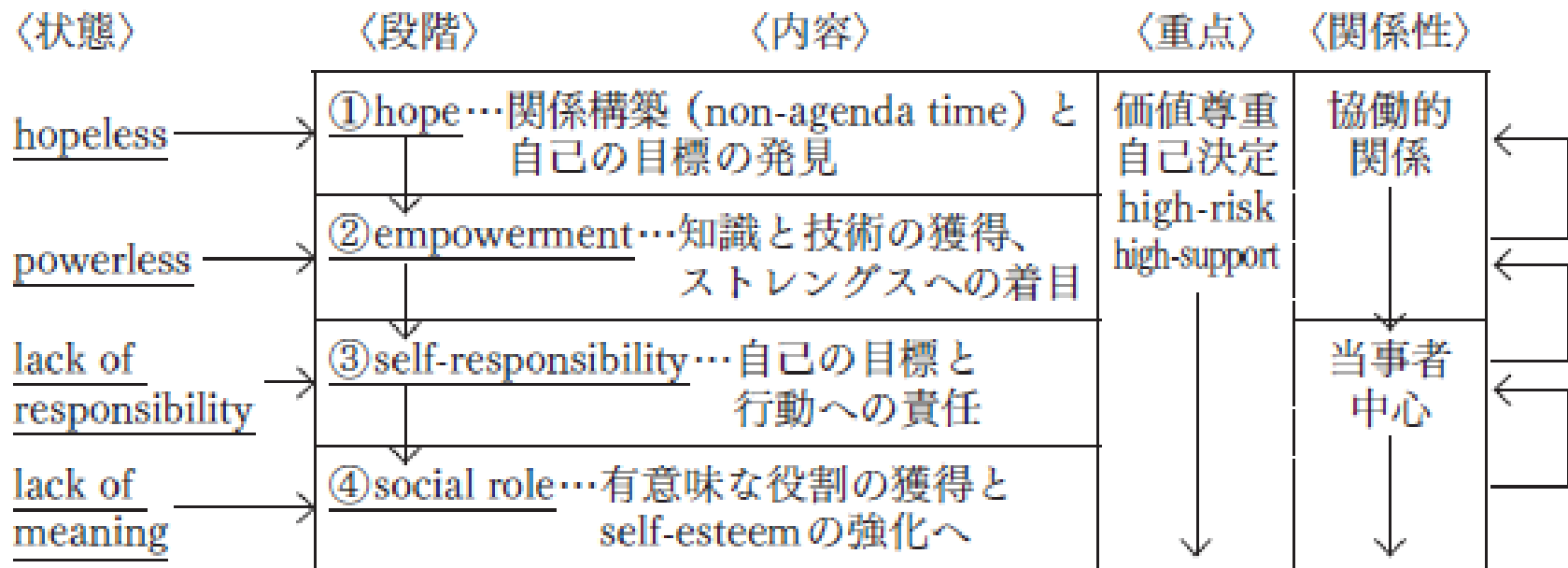
野中猛『心の病  
の道』岩波新書 回復へ



マークレーガン『ビレッジから学  
ぶリカバリーへの道—精神の病  
から立ち直ることを支援する』金  
剛出版

# 南山(2011)

図1 リカバリーのプロセス





# リカバリーを支える要素

(周囲) エンパワメント

(本人) レジリエンス

# エンパワメント

- 偏見と差別によって、パワーが失われている状態を減らすこと
  - 偏見と差別を減らす
  - 偏見と差別があってもパワーが失われないようにする
- エンパワメント
  - 当事者との一連の活動に携わるプロセス
  - 公民権運動に関わった、白人たち
- セルフ・エンパワメント
  - 当事者自身によるエンパワメント

# エンパワメント

## 障がいの社会モデル

| 社会モデル     | 個人モデル    |
|-----------|----------|
| 社会的抑圧の理論  | 本人の悲劇の理論 |
| 社会の問題     | 本人の問題    |
| 社会的行動     | 個人的治療    |
| 自助        | 医療優先     |
| 個人及び共同の責任 | 専門家支配    |
| 経験        | 訓練       |
| 主張        | 適応       |
| 区別        | 偏見       |
| 行動        | 態度       |
| 権利        | ケア       |
| 選択        | 統制       |
| 政治        | 政策       |
| 社会の変化     | 本人の適応    |

# レジリエンス

- 人生の様々な困難を乗り越える過程ないし乗り越える人がもつ性質
  - 困難な課題となり、存在を脅かすような状況にもかかわらず、適応していくプロセスや能力、そして、適応の結果 (Masten et al., 1990); 逆境において発現する、プラスの適応ないし発達のパターン (Masten et al., 1996)
  - 洞察力、自立性、関係性、自発性、創造性、ユーモア、倫理観 (Wolin and Wolin, 1993)
- 逆転の発想: ダメージではなく、ダメージの乗り越えに注目

# レジリエンスに関連した概念

- 外傷後成長 (Posttraumatic Growth: PTG) (Tedeschi and Calhoun, 2004)
- ストレスに関連した成長 (Stress-Related Growth: SRG) (Park et al., 1996)
- ベネフィット・ファインディング (Benefit-Finding: BF) (Helgeson et al., 2006)
- 苦難から生まれる愛他性 (Altruism Born of Suffering: ABS) (Staub and Vollhardt, 2008; Vollhardt, 2009; 安藤, 2010)
- 首尾一貫感覚 (Sense of Coherence) (Antonovsky, 1987)

# アントノフスキーの健康生成論

- 強制収容所から生還したユダヤ人女性のうち、情緒的な健康が保たれている約3割の人々の特徴「首尾一貫感覚(sense of coherence)の三つの構成要素
1. 把握可能感: 今自分が置かれている状況に対して、それには秩序があり予測と説明が可能であると理解する能力。
  2. 処理可能感: 状況を打破するための資源が手元にあり、自分で有効に対処できるだろうという感覚。
  3. 有意義感: 今の状況に対処することが、「自らの人生にとって意義のある挑戦であり、自己を投入して関わるに値するものである」という確信。



# ポイント

- エンパワメント(外界からの働きかけ)と、レジリエンス(本人の内面)は、相互作用するということ
- 間をつなぐのは、犯罪学でいえば、ラベリング理論
- 理論的なことについては改めて後述

犯罪者・非行者の立ち直り



# 立ち直りに関する研究

## Veysey (2008)

専門家にとっての問題と本人にとっての問題は異なる

### 専門家にとって

問題： 精神科治療、アルコール・薬物依存、被虐待、刑務所収容

### 本人にとって

問題： 孤独／自尊心の欠如／恥

目標： 仕事・教育／家庭／友人、誇り、意義のあることをすること

- 本人(犯罪者)の語りの分析
  - なぜ変わったか／その変化を持続するために必要なものは何だったか
  - 希望、信頼してくれる人、意味あるすべきこと

# 立ち直りに関する研究

## Veysey (2008)

### 立ち直り

価値のある、新しい社会的役割(アイデンティティ)の獲得

① 新たな役割を支えるための新たなスキルの獲得(あるいは既存のスキルの再構成)

② 新たな役割を強化する人々の獲得

強みとバネのストーリー(リカバリー・ストーリー)として自己物語を紡ぎ直す

### 立ち直りの支援

本人による新たなアイデンティティの選択を引き起こす確率を上げる環境づくり

← 支援者との人間関係: エンパワメント／信頼

# 立ち直りに関する研究

Maruna (2001)

- ① 本物の私(真の自己)の発見  
ダイヤモンドの原石(真の私)を再発見し、再構築する  
逸脱エピソードからプラスの面を掘り出す  
外部からのエンパワメント(勇気付け)＋内部からの立ち直り  
鏡に映る立ち直りの過程



# 立ち直りに関する研究

## Maruna (2001)

### ② 自らの運命を支配できるという「楽観主義」

苦労には意義がある

自分は特別である

世間にどのように対処すればよいかを知っている

セリグマンによる「希望」の定義

最善を期待し努力する(粘り強さ)



# 立ち直りに関する研究

## Maruna (2001)

### ③ 社会(とりわけ次の世代)にお返しをしたいという気持ち

自分自身の目的を見出す

通貨交換： 相当に熱心な道徳的な目的

傷ついた癒し手(ユング)／元犯罪者の専門家

逸脱した自己と正常な自己を併せ持つ



# 背景理論①

- 構造的象徴的相互作用論
  - 人は、「社会構造」のなかで、自らのアイデンティティを形成する
  - そのアイデンティティは、他者からの「役割期待」を内面化したものである。
  - その役割期待に沿った行動が他者からの反応(強化)を引き出す。
- つまり、エンパワメントとレジリエンスは相互作用する。
- 人生の変化とは、この「役割期待」の変化である。
  - どのような社会構造がそのような相互作用を引き起こすかが課題となる。

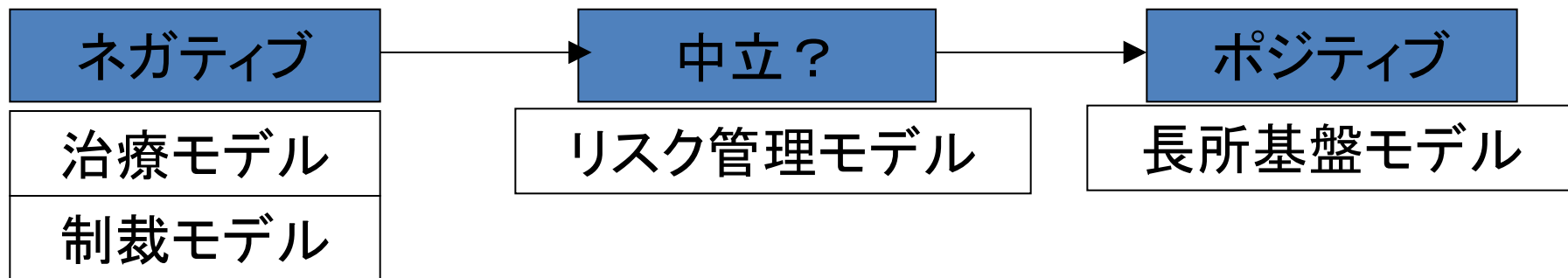
## 背景理論②

- ナラティブによる、アイデンティティ形成へのアプローチ
  - アイデンティティとは、単なる自己定義ではなく、自らの感情・内面を統治する内的なストーリーである。
  - その内面的ストーリーは、外界から取り入れたものである。
  - そのストーリーに沿った行動が、そのストーリーを強化する
- 人生の変化とは、それを書き換えることである。
  - どのような社会構造がそのような書き換えを促進するかが課題となる。

犯罪者の立ち直りを促進する



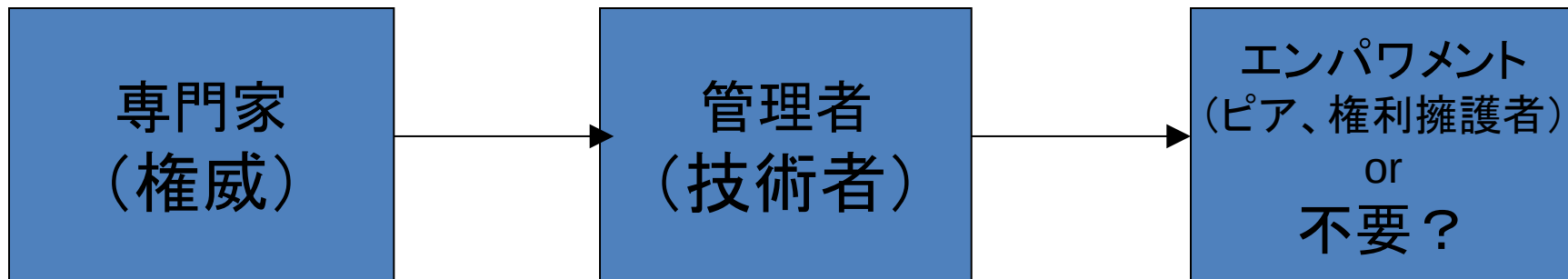
# 犯罪者処遇におけるポジティブシフト



## 本人



## 刑事司法



# リカバリー・ストーリーの共有 当事者にとっての意味

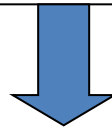
立ち直りとは

他者を助けるために未来を捧げることによって、自分の恥ずべき過去を、善用したいという語りこのような語りを獲得すること



立ち直りの支援とは

このような語りの獲得の支援。相互扶助の仲間（同じ語りを共有する者としての）として迎え入れること



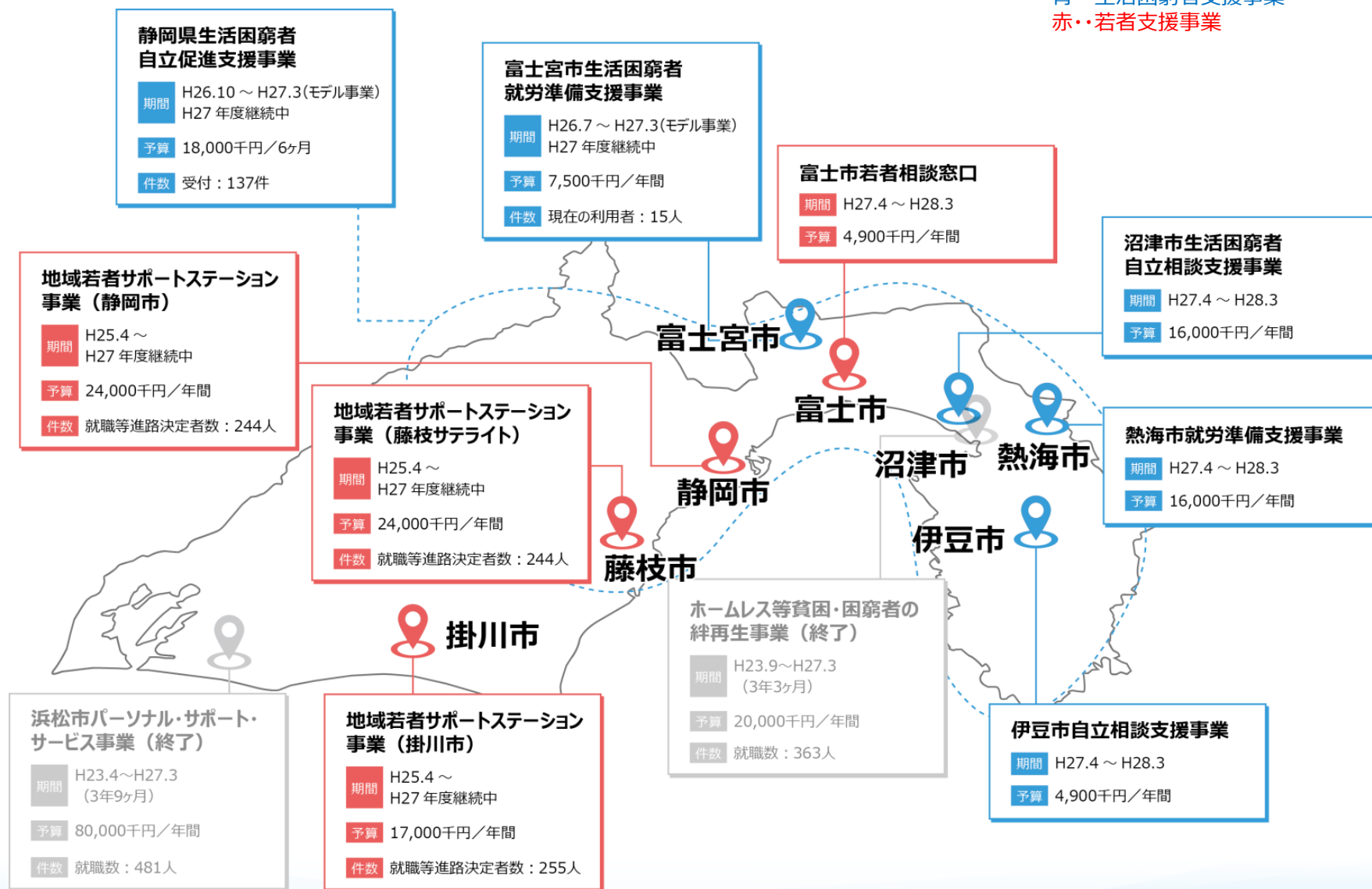
能動的・楽観的な未来の共有

そして、就労支援へ

# 青少年就労支援ネットワーク静岡

|       |                                                      |
|-------|------------------------------------------------------|
| 平成14年 | 発足                                                   |
| 平成15年 | 若者に対する支援を開始                                          |
| 平成16年 | NPO法人化                                               |
| 平成17年 | 静岡方式の原型の完成                                           |
| 平成18年 | IPSとの出会い                                             |
| 平成23年 | 浜松パーソナルサポートセンター（～平成27年）<br>東部青少年就労支援センター（沼津）（～平成27年） |
| 平成24年 | 静岡地域若者サポートステーション（清水）                                 |
| 平成25年 | 地域若者サポートステーションかけがわ<br>静岡地域若者サポートステーション藤枝サテライト        |
| 平成26年 | 富士宮就労準備支援センター                                        |
| 平成27年 | 沼津市自立相談支援センター<br>富士市若者相談窓口<br>ほか 伊豆市、熱海市、静岡県内町部      |

青・・・生活困窮者支援事業  
赤・・・若者支援事業



ビデオを見ましょう

# 支援にあたっての考え方

①市民のネットワークで支援

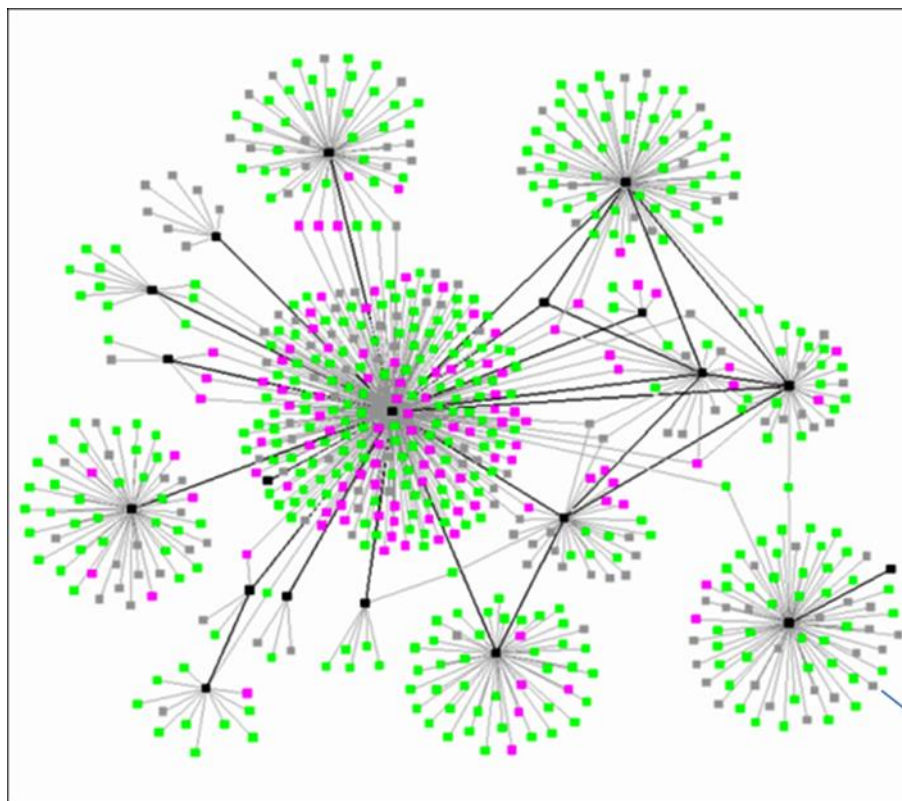
②本人の好み（つよみ・ストレン  
グス）を大切に

③IPSという精神障害者の伴走  
型の就労支援の手法が基本

＊若者就労支援の対象者のほぼ半分は、精神科・  
心療内科で治療を受けたことがあります



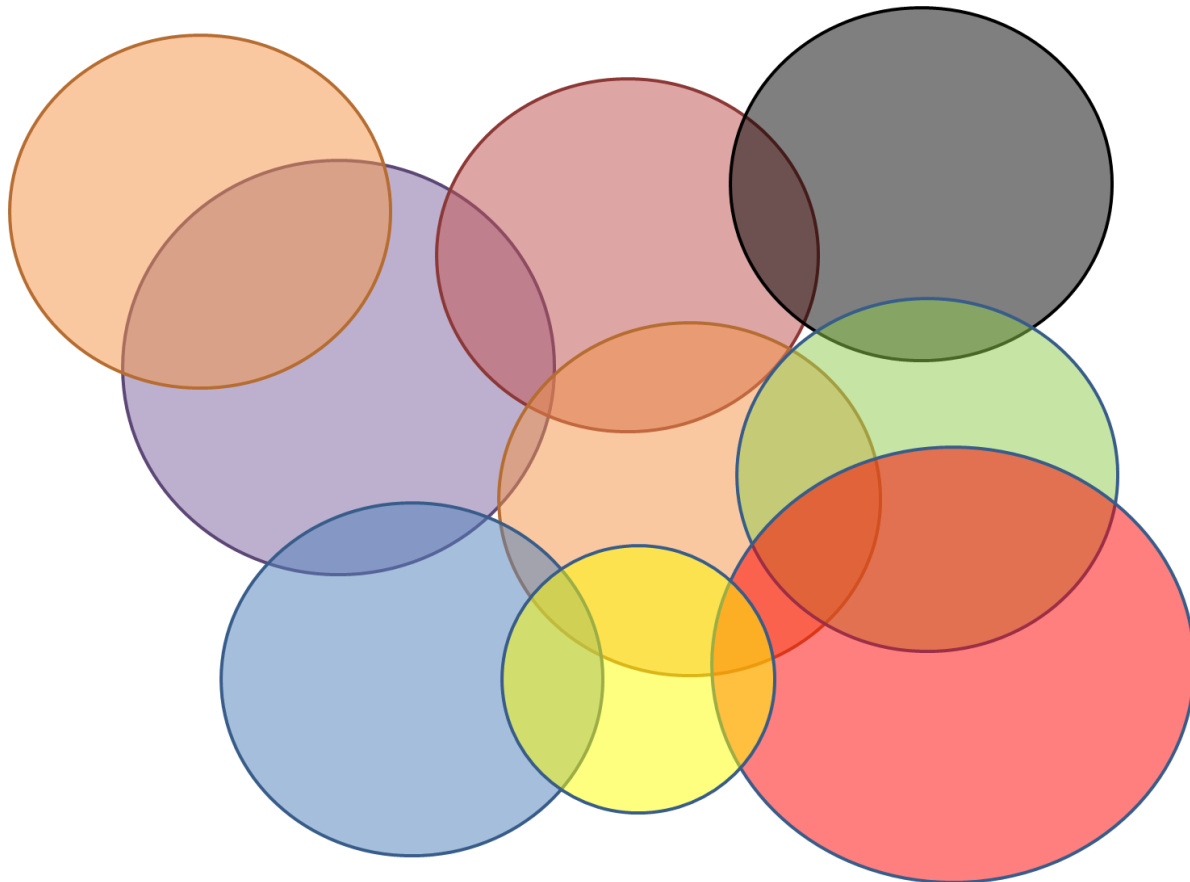
# ①市民のネットワークで支援



若者



多様な私たちはつながることで  
働きたくても働けない若者のために  
できることがたくさんある



## ② 本人の好きを大切にする

好みこそ、つよみ（ストレングス）  
本人の好きなこと・好きなひと・好きなもの  
を手掛かり・足がかりに



# ストレングスとは

|    | 本人（願望、能力、自信） | 環境（資源、社会関係、機会） |
|----|--------------|----------------|
| 現在 | できること        | 活用できること        |
| 未来 | したいこと        | 活用したいこと        |
| 過去 | できていたこと      | 活用できていたこと      |

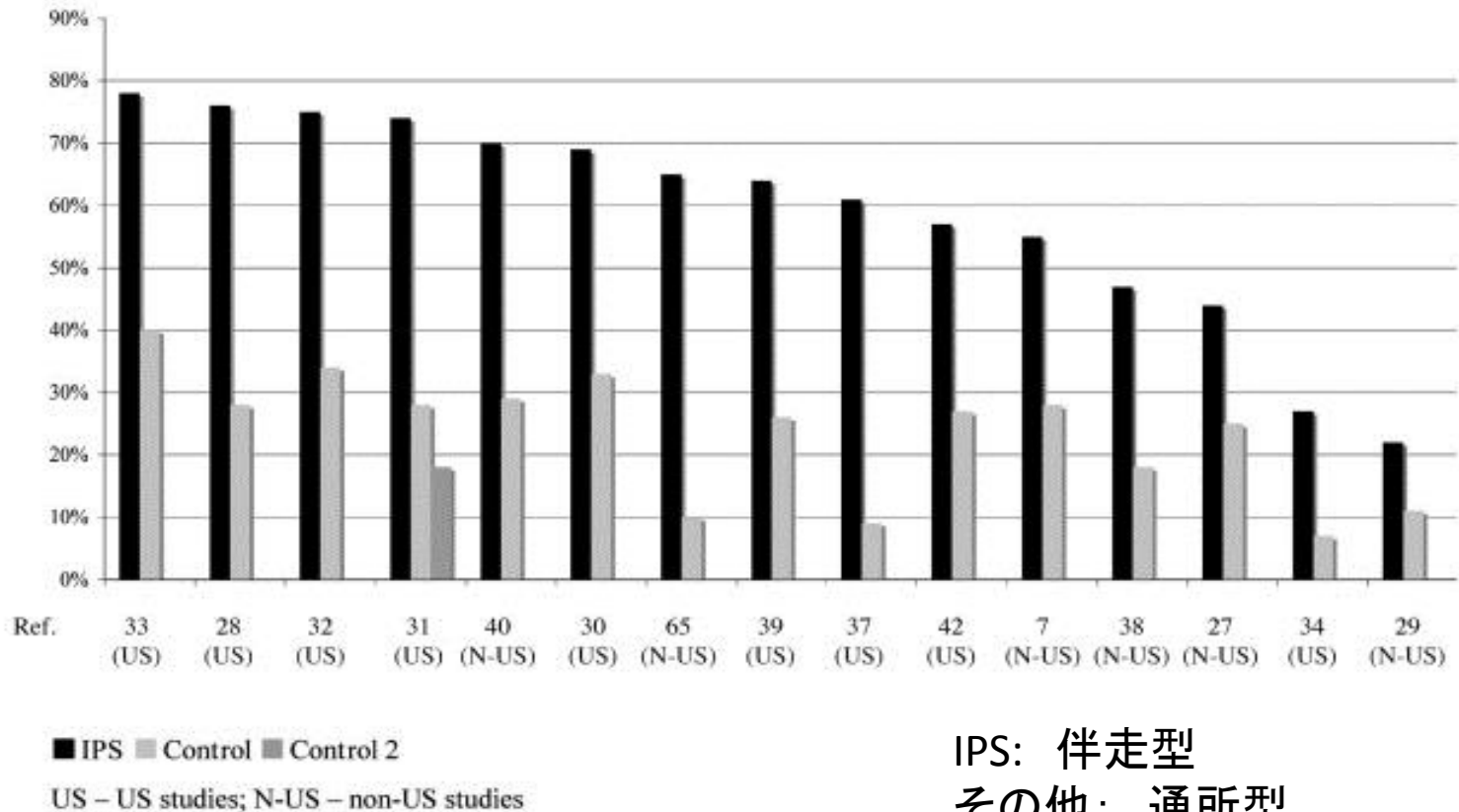


### ③ IPS（精神障害者のための伴走型就労支援）の原則

1. 一般雇用（最低賃金）を旨指します
2. 働きたい人はどんな人でも支援します
3. 医療の支えを得ます
4. 本人の好みを尊重します
5. 訓練やカウンセリングではなく、ただちに職探しを  
始めます
6. 本人の好みに沿って、地域の職場を探します
7. 本人の望む限り、ずっと支援します

# IPSの効果 働けるという前提を持つこと

就労率



IPS: 伴走型  
その他: 通所型

World Psychiatry. Feb 2012; 11(1): 32–39. Generalizability of the Individual Placement and Support (IPS) model of supported employment outside the US  
GARY R. BOND,<sup>1</sup> ROBERT E. DRAKE,<sup>1</sup> and DEBORAH R. BECKER<sup>1</sup>

ワークを試してみませんか

# ワーク1

困っている人のストレングスを生かす

Uさんの事例を見てみましょう

Tさんの事例を見て

- ① ストレングスを考えましょう
- ② 提案できることを考えましょう

## ワーク2

### みんなのストレングスを生かす

自分のできること・したいこと・できていたこと／  
好きなもの・好きな人・好きなこと

＊ 5つまで

自分の知っている人のできること・したいこと・で  
きていたこと／好きなもの・好きな人・好きなこと

＊ 5人について、一人一つ



これが私たちの支援です

地域サポートステーションかけが  
わの事例を読んでみましょう

ありがとうございました